

【百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	トモテツビル	福山市三之丸町12番、14番、15番	物品販売業を営む店舗	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.66 Is/Is0=1.10 CTU・SD=0.66	除却工事	2019年(平成31年)3月 除却工事完了	塔屋① Is0=0.60(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=1.32, CTU・SD=1.32 PH1階 Is=0.66, CTU・SD=0.66 Y方向 PH2階 Is=1.82, CTU・SD=1.83 PH1階 Is=1.10, CTU・SD=1.10
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.20 Is/Is0=0.33 CTU・SD=0.14			塔屋② Is0=0.60(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=0.51, CTU・SD=0.40 PH1階 Is=0.20, CTU・SD=0.14 Y方向 PH2階 Is=1.82, CTU・SD=1.82 PH1階 Is=0.85, CTU・SD=0.85
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.14 Is/Is0=0.23 CTU・SD=0.19			B1, 6~8階部分 Is0=0.60(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 8階 Is=0.14, CTU・SD=0.19 7階 Is=0.26, CTU・SD=0.26 6階 Is=0.24, CTU・SD=0.25 B1階 Is=0.62, CTU・SD=0.63 Y方向 8階 Is=0.23, CTU・SD=0.30 7階 Is=0.36, CTU・SD=0.36 6階 Is=0.36, CTU・SD=0.37 B1階 Is=0.70, CTU・SD=0.70
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	Is=0.23 Is/Is0=0.38 CTU・SD=0.19			1~5階部分 Is0=0.60(所有者の指定による) Rt=0.99 耐震診断の結果(詳細) X方向 5階 Is=0.23, CTU・SD=0.19 4階 Is=0.31, CTU・SD=0.26 3階 Is=0.27, CTU・SD=0.23 2階 Is=0.28, CTU・SD=0.24 1階 Is=0.36, CTU・SD=0.31 Y方向 5階 Is=0.48, CTU・SD=0.38 4階 Is=0.44, CTU・SD=0.35 3階 Is=0.38, CTU・SD=0.30 2階 Is=0.43, CTU・SD=0.34 1階 Is=0.40, CTU・SD=0.33

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
2	天満屋福山店 【2021年(令和3年)2月18日更新】	福山市元町1-1, 1-2	物品販売業を営む店舗	別表2(4-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=1.56 Is/Iso=1.95	耐震改修	2018年(平成30年)10月 補強設計完了 2020年(令和2年)12月 耐震改修工事完了	塔屋① Iso=0.80(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=1.56 Y方向 PH2階 Is=1.62
				別表2(4-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.81 Is/Iso=1.01			塔屋② X方向(PH1, 2階) Y方向(PH2階) Iso=0.80(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=1.47 PH1階 Is=0.81 Y方向 PH2階 Is=2.62
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	Is=0.30 Is/Iso=0.50 CTU・SD=0.22			塔屋② Y方向(PH1階) Iso=0.60(所有者の指定による) Rt=0.98 耐震診断の結果(詳細) Y方向 PH1 Is=0.30, CTU・SD=0.22
				別表2(4-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=1.78 Is/Iso=2.22			塔屋③ Iso=0.80(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH1階 Is=1.97 Y方向 PH1階 Is=1.78
				別表2(4-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=1.16 Is/Iso=1.45			塔屋④ Iso=0.80(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH1階 Is=1.65 Y方向 PH1階 Is=1.16
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	Is=0.26 Is/Iso=0.43 CTU・SD=0.20			Iso=0.60(所有者の指定による) Rt=0.98 耐震診断の結果(詳細) X方向 9階 Is=0.26, CTU・SD=0.20 8階 Is=0.51, CTU・SD=0.38 7階 Is=0.52, CTU・SD=0.39 6階 Is=0.46, CTU・SD=0.35 5階 Is=0.42, CTU・SD=0.32 4階 Is=0.37, CTU・SD=0.29 3階 Is=0.71, CTU・SD=0.26 2階 Is=0.40, CTU・SD=0.30 1階 Is=0.46, CTU・SD=0.35 Y方向 9階 Is=0.55, CTU・SD=0.42 8階 Is=0.60, CTU・SD=0.44 7階 Is=0.47, CTU・SD=0.36 6階 Is=0.40, CTU・SD=0.31 5階 Is=0.36, CTU・SD=0.28 4階 Is=0.36, CTU・SD=0.28 3階 Is=0.61, CTU・SD=0.24 2階 Is=0.63, CTU・SD=0.47 1階 Is=0.64, CTU・SD=0.23
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	Is=0.65 Is/Iso=1.08 CTU・SD=0.62			地階部分 Iso=0.60(所有者の指定による) Rt=0.98 耐震診断の結果(詳細) X方向 B1階 Is=0.65, CTU・SD=0.62 B2階 Is=0.70, CTU・SD=0.67 B3階 Is=0.67, CTU・SD=0.65 Y方向 B1階 Is=0.66, CTU・SD=0.65 B2階 Is=0.70, CTU・SD=0.66 B3階 Is=0.68, CTU・SD=0.68

附表 耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	II (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	III (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)	
(4-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$	
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$	

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずる恐れは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びI_{so}を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。

※※特記無き限り、地域係数Z=0.9、補正係数G=1.0、U=1.0として耐震診断されています。